

「札幌市中央図書館で探す藻岩山プロジェクト」

学習のねらい

- ・学校図書館で学んだ図書館利用の仕方を生かし、自分で探したい事柄について本を見付けることができる。
- ・中央図書館の利用を通じて、図書館の役割の理解、読書への関心を広めることができる。

主な学習活動



- ・総合的な学習の時間、「藻岩プロジェクト」の学習で、子どもたちから藻岩山についてたくさんの知りたいこと（「探偵課題」と称する）が出された。これを解決するべく学校図書館での調べ学習が始まったが、解決になかなかいたらない。



- ・郷土資料室の使用、図書の閲覧体制を工夫することで、多くの資料の閲覧ができることが可能になった。図書館の団体貸し出し券の申請を行った。また全員が図書を借り出して、すぐに利用できるように図書館の講堂を利用し、まとめ、発表する体制をとった。



- ・中央図書館を利用するのはほとんど初めてで、蔵書数が多く圧倒される場面もあったが、事前に保護者やボランティアを募り、環境財団への協力も得て体制を組み、子ども達の課題を整理して、図書を探し出すサポート体制をとったことで多くの基本資料に出会うことになったと言える。

授業の成果と課題

中央図書館での学習でも、これまでの学校図書館の本の探し方は同じであり、蔵書数が多い図書館でも事前に学校のコンピュータで本を検索していくことができることを知った。また闇雲に本を探すのではなく、興味関心を「探偵課題」化していくことで資料を的確に探していくことができることを学んだと言える。日常の図書館利用に大きな関心を寄せたこと自体が大きな成果である。

保護者やボランティアに声をかけ、活動を支援していただいたが大変有効であった。本校は図書ボランティアによる学校図書館地域開放図書館運営、寄託図書のセンターともなっており、読書活動を推進する上で恵まれた環境にある。

これからの課題は、図書に盛られた資料を読み取る力の育成であり、活用の能力である。また図書へ収録された情報をつなぎ合わせる「接続の力」をどのように養うのが課題である。藻岩の情報がどこにあるのか、今度は藻岩へ関わる自然や人間、事物の実際の出会うことを学校として応援していくこと、学習過程に組み入れていくことが重要であると言える。今回は、クマの出没事例が頻発し実地調査や聞き取りへ出て行くことが困難であった。さらに利用のスキルのアップと情報をまとめ上げていく力を身に付けさせていきたい。